

間がNOCPになりそうだとの情報。そうすると、とりあえず1分はキャンセルになる。よし、そろそろツギがまわってきたなと思ひ直し、スペシャルステージのみの第3ステージへスタート。

コースコンディションによって、ハイランドパークと白糸の滝林道の第1・2・9・10SS4カ所がキャンセルとなる。そのため、第3、4の浅間山荘上り下りから始まる。ここは羽豆選手が苦手とするコース。しかしゴールしてみると上りはトップの1秒遅れとまずまず、下りは2回程失敗して5秒遅れ。続いて、軽井沢の1,000m林道で4カ所のSSだ。この区間、スケジュール調整のため、CクラスとA・Bクラスが交代で走るという面白い設定。SS5の入口付近で先に走ったBクラス宗正選手のEP71が、フロントタイヤをハの字に広げて道のまん中にストップしている。宗ちゃんは車の中でふて

寝(？)、この場所は以後3~4回繰り返して通る、さぞ宗正選手、まわりがうるさくて眠れなかったことだろう。まあなんとカSSを無難にこなして照月湖のホテルへゴール。

なんと、大西選手、羽豆選手、松本選手の3台のコルディアが1・2・3位と上位を独占している模様。スバル勢は、加藤選手がミスコース、清水選手が二度上峠でのスタックによる大幅遅れにあつて、いずれも入賞圏外。二度上峠のスタック騒動は、NOCPになった上り区間だけでなく、その影響を受けた下り区間も結果を大きく左右することになる。大西選手は、ラッキーにも上り下り区間の影響をほとんど受けていない。松本選手と羽豆選手は、スタックの真最中で下りも1~2分の遅れ。にもかかわらず1・2・3位を独占しているのだ。問題は、この3台のなかで誰がトップになるのか？

二度上峠のスタック問題で大幅に遅れた表彰式。寺尾さんの決断により、上りのみNOCP。影響を受けた下り区間はラリーなら当たり前ということでチョン。

優勝は見事JAF戦初優勝の、CMSC青森大西選手、2位に羽豆選手、3位は連続松本選手。松本選手は昨年冬の2戦をスバルでポイント稼ぎを狙ったが目算外れ、今年はコルディアに変えて見事目標を達成。3位2回で100

点とポイントを大きく伸ばしたのである。

まずは大成功というところである。しかし、それにしても第1戦の1・3・4・7位入賞に引き続き、第2戦ではなんと1・2・3位入賞！と、まさにコルディア優勝のスノーラリーであった。

(CMSC本部 田口雅生)

1985 JAF全日本ラリー選手権カレンダー

()内の数字は走行距離...km

月 日	競 技 会 名	場 所
4月 6~ 7日	KANSAI-RALLY'85	奈良(200)三重(200)滋賀(100)
20~21日	'85ACKスプリングラリー	大分(300)熊本(50)
5月18~19日	'85TOUR DE SHIKOKU 「ツールド 四国」	愛媛(400)
6月 8~ 9日	ツールド 九州 '85PART1	熊本(200)大分(200)
29~30日	'85ツールド 東北	岩手(350)
7月20~21日	AG・MSC北海道 '85ノースアタック300	北海道道央(300)
8月24~25日	'85栗駒山アルペンラリー	岩手(300)
9月15~16日	モントレー '85	群馬(350)長野(150)

'85JAF全日本ラリー選手権 第1・2戦でその素晴らしさを実証した

コルディア4WD用ラリーアート・スポーツキット新発売

4月1日より受注開始

(株)ラリーアート

昨年のオールスターラリーへのデビュー以来、着々とテスト実戦参加を続けていた「ラリーアート・コルディア」。一刻も早くハイパフォーマンスなスポーツキットを準備するためには、数多くの実戦経験を積むことが最も近道。まず、オールスターラリーで確認した仕様を第1次仕様としてサンプル品を準備し、CMSCメンバーを始めとするトップドライバーのアドバイスを受けることにしました。

その結果、見事'85 JAF 第1戦で、この第1次仕様を装着したコルディアが1・3・7位に入賞。さらに惜しくも4位となったラリーアート・コルディアには、すでに改良を施した第2次仕様を実戦テストされていました。続く第2戦ではこの確認された第2次仕様を全車に装着。結果、CMSC青森の大西選手が優勝を果たし、さらに2・3位の上位独占したことは記憶に新しいことと思います。同日、東北で行なわれたラリーでは同じくこの第2次仕様で出場したCMSC青森の館

山選手、CMSC福島の菅野選手が1・2位とこれまた上位を独占するという好結果をおさめました。

このような実戦テストの成果を踏まえて設定したのが、今回新発売される「ラリーアート・スポーツキット」です。今回の仕様の設定にあたって狙いといた点は、4WD車として特別なテクニックを必要とすることはなく、FF車・FR車から乗り換えてもすぐに慣れることを第1の目標としました。これは、今まで上位独占したドライバーのほとんどが、4WD車は初めてということからも、目的を達せられたと考えています。とにかく乗りやすく、運転の楽な仕様が狙いでした。第1の目標とオーバーラップする部分がありますが、初心者でも楽に乗ることができ、なおかつタイムの出るサスペンションと欲ばった狙いではありません。しかし、残念ながら上位入賞を果たしたドライバー全員がトップクラスであることから、今後、ユーザーであるみなさまの評価を待たなくてははいけないよ

うですが、実戦を経験したトップドライバーのコメントを聞く限りでは、この狙いも十分に達成されたのではないかと考えています。

今後もさらに改良を続け、よりよいキットとして熟成していくつもりですので、みなさまからのアドバイスをお待ちしております。

なお、受注窓口はお近くの三菱自動車販売会社、または㈱テスト&サービス(〒213 川崎市宮前区馬絹1780 TEL. 044-854-1945)となります。

コルディア4WD用「ラリーアート・スポーツキット」概要

部 品 名 称	仕 様
1 フロントストラットアウトターシェル	分解タイプ、外筒肉厚UP強化
2 フロントストラットカードリッジ	減衰力 C=220/130kg 複筒ガス封入 P=10kg/cm ²
3 リヤショックアブソーバ	減衰力 C=200/125kg ド・カルボンタイプ
4 フロントスプリング	K=2.5kg/mm
5 リヤトーションバ	K=2.5kg/mm(タイヤ位置換算)
6 テンションロッドブッシュ	強化ゴムブッシュ
7 リヤサスインシュレータ(フロント&リヤ)	
8 リヤエクステンションロッドブッシュ	
9 エンジンマウントインシュレータ	強化ゴム
10 T/Mマウントインシュレータ	
11 フロントロールストップバーインシュレータ	
12 ブレーキパッド & シュー	フェロドDS11 & M4
13 ロールバー	スチール製 4点式
14 アンダーガード	アルミ製
15 タンクガード	
16 クロスレシオギヤセット	開発中(発売時期未定)

CMSCだより

ランサーターボ(青沼選手)、改造車を大きくひきはなし圧勝! 第4回阿寒氷上タイムトライアル'85氷上シリーズ第3戦

CMSC帯広 会長 佐藤光政

2月10・11日、猛吹雪の最悪コンディションのなか、阿寒氷上トライアルが開催されました。

第1日目の10日はノーマルタイヤ部門。N-1、N-2、改造車の各クラス参加総合台数は115台で、総合優勝は75台で競われたN-2クラスの、武田栄一選手(シビックSi)でした。

改造タイヤ部門の11日は、47台の並いる改造車を大きくひきはなし、ノーマル車のランサーターボIC、青沼達也選手が総合優勝!“改造車に負けないインタークーラーターボの威力”を立証したといえるでしょう。

レース以外のイベントとして、11日に篠塚建次郎氏のデモ走行が行なわれました。コルディアチューリップの青沼車、コルディアノーマルの石崎車で約1.5kmのコースを2度走行し、その豪快な走りに“さすが!”の声しきり。

レース終了後、15:00からは、“阿寒ビューホテル”にて、篠塚氏を囲んでCMSC帯広若手メンバーとの懇談会を華々しく開催。

“腕を上げるには、強いドライバーの横にのるに限る!”など、熱の入ったテクニック論が繰り広げられました。

氷上トライアル、デモ走行、懇談会の様子は、3月2日、“氷の上のレーサーたち”と題し、UHB(北海道文化放送)で、30分ドキュメント番組として放映され、話題を呼びました。



篠塚建次郎氏よりトロフィーを受けとる青沼選手

第4回阿寒氷上タイムトライアル'85氷上シリーズ第3戦

総合順位

2月10日 ノーマルタイヤ部門

順位	ドライバー	所 属	車種名	ベストラップ
1	武田 栄一	M S C 中標津	シビック	1.31.14
2	青沼 達也	C M S C 帯広	コルディア	1.31.32
3	鈴木 幸一	M S C カイト	ファミリア	1.34.44
4	石崎 一彦	C M S C 帯広	コルディア	1.34.78
5	三浦 正博	チームクロスロード	MR 2	1.36.40

2月11日 改造タイヤ部門

順位	ドライバー	所 属	車種名	ベストラップ
1	青沼 達也	C M S C 帯広	ランサーターボ	1.15.26

CMSC青森 館山・永沢組優勝!

2位にCMSC福島 菅野・佐藤組

'85JMRC東北ラリーチャンピオンシリーズ第1戦

CMSC青森 会長 鶴ヶ谷慶市

'85JMRC東北ラリーチャンピオンシリーズ第1戦、第5回MSC20田沢湖高原まつり・ウインターラリーが、2月9~10日、東北の強豪ラリストを一堂に、集めて開催されました。

秋田県田沢湖高原の田沢湖コースランドホテル前から、午後9時1分、1号車がスタート。雨まじりの雪の中、85年度東北ラリーチャンピオンの覇を競う幕が明けられました。

第5回MSC-20田沢湖高原雪祭りウインターラリー 総合順位

順位	ドライバー	ナビゲータ	所 属	車種名	成績
1	館山 正嗣	永沢 裕之	C M S C 青森	コルディア	232
2	菅野 茂	佐藤 忠宣	C M S C 福島	コルディア	313
3	富士 文秀	葛西 一省	C M S C 青森	レビン	356
4	中村 真	橋本 俊雄	M S C フレスト岩手	レビン	370
5	満井 幸夫	尖戸千恵子	ラリーチームロータススポーツ宮城	レビン	403
6	藤原道太郎	藤村 幸雄	チームフジムラ岩手	レビン	410
7	今野 晴夫	丹野 信行	ラリーチームランドプロジェクト山形	レビン	430
8	池田 豊美	佐藤 洋一	ラリークラブアバンテ秋田	レビン	451
8	島山 幸記	松本 義郎	ワークスサンレモ福島	ランサーターボ	451
10	佐藤 一男	佐々木善伸	モーターススポーツチームコスモス秋田	ランサーターボ	457

ゼッケン2番のコルディア4WDターボは館山・永沢組。シャーベット状の雪道でラッセルしながらのラリー走行を強いられます。しかしこのラリーの最重要区間(ハイアベレジ区間)である乳頭スキー場の上り、下り、そして玉川ダムサイドの上り、下りを他車に大きく差をつけ、最も速く走り最少減点でおさえるという快走ぶりをみせつけました。また、その他の区間でも、

ドライバー、ナビゲータのすばらしいコンビネーションプレーにより、最少減点でクリアー、見事第1戦でぶつぎりの優勝を成し遂げたのです。

ラリー終了後のインタビューでは、「最初は四駆車という先入観があったが、いざ乗ってみるとFR的な感じで走ることができた。ビギナーにもスムーズにドライビングできるようだ。そ

して悪路の中で四駆の機能を最大限に生かせたならば、かなりの成績を出せると思う。今日はコルディア4WDの勝利です」と館山選手。

今年は東北チャンピオンを目指して大いに活躍してほしいと思います。



優勝のCMSC青森 館山(左)・永沢組

